



WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I. 真実かどうか
- II. みんなに公平か
- III. 好意と友情を深めるか
- IV. みんなのためになるかどうか

□会長／高橋 義孝

□幹事／長嶋 明彦

□副会長／山梨 由博

□副幹事／金丸 智昭

例会日:毎週月曜日 18:00~19:00

例会場:静岡グランドホテル中島屋

事務所:静岡市葵区追手町2-12 5F/ TEL 054-254-5611

2014-2015年度RI会長 ゲイリー C. K. ホアン 「Light Up Rotary」

平成27年2月16日(月)

No.1169
第1241回 例会

ホームページ
アクセス数

2015.2.18

20050

2015.2.10

19968

ホスト：静岡ロータリークラブ

静岡市7クラブ合同例会

会場：グランディエールブuketーカイ

♪ 本日のロータリーソング「奉仕の理想」 ● ソングリーダー：静岡ロータリークラブ 谷本 宏太郎 君

静岡RC／浅原 諒蔵 会長の時間



市内7クラブのロータリアンの皆様、今日は。

本日は、7クラブ合同例会に大勢様、ご参加いただき、誠に有難うございます。

私、ホストクラブの静岡ロータリーの会長、浅原でございます。

昨年度、地区幹事の節には皆様方に大変、お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。

さて本日の市内7クラブ合同例会ですが、後程、日本銀行静岡支店長の服部守親様にご講演をいただきますが、その前に少しホストクラブ会長としてご挨拶を申し上げます。

本日は2月16日ですが、一週間後の2月23日はロータリークラブ発足の日です。言うまでもありませんが、今から丁度110年前の1905年2月23日にシカゴでロータリークラブは誕生いたしました。20世紀初頭のシカゴの街は、著しい経済発展の陰で、商業道德の欠如が目につくように成っていました。そのような中、青年弁護士であったポール・ハリスはこの風潮を憂い、友人3人と語らって、お互いに信頼できる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいと、と云う趣旨でロータリークラブという会合を考えたと言われております。その時から110年と云う時間が経過した現在、世界は20世紀初頭のシカゴ以上に商業道德の欠如のみならず、生産や消費と云ったあらゆる面で、取り訳政治や経済に於いて、より複雑な問題を抱えているように思えます。今の時代を生きている私達は、それら問題を少しでも解決をして、より良いものとして次の世代に、次の時代を担う人々に受け継いでいく義務があるように思えます。グローバル資本主義経済の時代と云われる現在は、ポール・ハリスの時代とは経済の仕組みも価値観も大きく違いますが、ロータリー精神はいつの時代にあっても通じるものがあるように思えます。

そして、もう一つ。今月、2月は世界理解月間です。特にロータリーの創立記念日である2月23日は「世界理解と平和の日」とされております。2月の世界理解月間には、世界平和のために理解と善意を強調するプログラムを行うよう要請されておりますが、まさしく世界理解が最も求められている時期ではないでしょうか。

市内7クラブ合同例会と云うことで、少々、大上段に構えた挨拶となってしまいましたが、この後、日銀静岡支店長の「静岡への期待 私が静岡を愛する理由」と題して記念講演が行われます。温暖で住みやすい処なのに何故か、人口の流出がワースト2と云う静岡、その辺の解説も伺えればと思います。

立春を過ぎて少しずつ、日が伸びてまいりましたが、まだまだ寒い日々が続きます。お身体ご自愛くださいまして、今週もお元気で過ごしてください。

本日のクラブ参加者報告

静岡東RC：40名

静岡中央RC：33名

静岡南RC：19名

静岡北RC：24名

静岡日本平RC：30名

静岡RC：73名

静岡西RC：27名

合計：246名

静岡中央ロータリークラブ週報

クラブ会報委員会 / 森川 智明・浦田 力・是永 俊晴・宮崎 允夫・森 年正・朝来野 弦・稲垣 信一郎

ホームページ <http://shizuoka-chuo-rc.jp/> メールアドレス 6rc-godo@mail.wbs.ne.jp



講師：日本銀行静岡支店長
服部 元親さん

～静岡への期待－私が静岡を愛する理由～



今回の講演は「趣味の話」とのことで、普段の経済関係の講演依頼とは勝手が違うことから一旦ご辞退したのですが、趣味の話の延長に経済・社会のお話とのことでお引き受けさせていただきました。

自転車を通じて感じた静岡をお話してみたいと思います。自転車を始めたきっかけは、腰痛をわずらった時に、自力で腰痛を克服するなら自転車が良くとアドバイス得たことがきっかけです。最初は1990年代にマンテンバイクが流行っていたのでマンテンバイクを購入しました。マンテンバイクは山から転げ落ちるような急な坂を楽しむのが醍醐味ですが、職業柄月曜日に腕を吊って会社に行くのも難しいので、そこまで過酷でない自転車を楽しめないかということと、自転車屋さんに置いてある自転車の半分以上がロードバイクであり、スピードが出て景色が良いところを走るのが非常に爽快であることから、ある時からロードバイクに傾くことになりました。

■静岡に何ができるか

- ・東京では、今後10～20年で65歳超になる高齢層予備軍を地方に誘導・移住してもらうことが有用な解決策となる。
- ・この点、静岡は、①東京からのアクセスや、②居住環境（気候、水、食、コンパクトシティ、医療、防災）の面で大きな優位性。
- ・この優位性を活かし、①健康産業の育成、②余暇を楽しめる大人の街づくり（歴史、芸術模型、サイクリング等）、③介護の真の産業化、等で静岡の活性化を図れないか。

■サイクルリストとしての静岡への期待

ヨーロッパは自転車の歴史が長い分、街に自転車が溶け込んでいる。

ヨーロッパのマネをした方がよい。

- ・静岡版ベリブ（貸自転車）の運営 *ベリブ：パリの自転車貸出システム
- ・シティサイクリングマップの作成。
（自転車で楽しめる街の情報や自転車道の安全性度合など）
- ・自転車置き場があるカフェ。
（自転車の盗難が怖くて今はペットボトルで済ましてしまう。）
- ・サイクルレーンの進化。
- ・自転車が安全に乗り入れることが可能な道路整備。

■最後に一言（地方創生について）

- ・地域創生を成功させるのは、地域が目指す方向に関する地域の尺度が重要。
- ・地域GDP、人口増といったこれまでの一律の尺度で地域創生に取り組むと、地域によっては効果が顕れず、財政負担だけを残すことになる可能性。
- ・上記の尺度の検討は、地域における経済的な意味の「歴史認識」を再考することでもある

～全文はHPに掲載いたします～